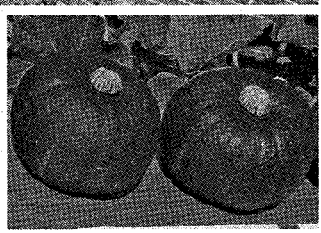
食味勝負 大玉カボチャ

スイートコーンは耐倒伏性

雪印種苗の野菜フィールドデイ

雪印種苗の野菜フィールドデイは先月、千葉市稲毛区の千葉研究農場で開かれた。先月の東京都種苗会花き種苗改善審査会で1位を獲得したコマツナ「のりちゃん」やエダマメのほか、カボチャやスイートコーンの試作品種も披露、梅雨晴れで気温がグングン34℃まで上がる中、参加者は熱さに負けない熱い質問を投げかけていた。

カボチャの試作品種「SQ—018（栗天下）」は黒皮系で2㌔を超える中高で偏円形の大玉タイプ。小玉がもてはやされている中で、敢えて大玉にチャレンジ。粉質で食味が優れている上に、黒皮は退色が遅く、貯蔵性も兼ね備えていて、北海道での試作で評判は上々。北海道の大規模産地では重量カボチャを機械で効率的に収穫しているが、今後の北海道以外での栽培では地域特性を生かした栽培方法を模索している。



カボチャの品種特性を聴く参加者（上）、試作品種「SQ—018（栗天下）」は甘みが強くほくほくした食感

スイートコーンは白くてフルーティーな甘さの中生品種の「ピュアホワイト」、各作型で栽培特性が安定している早生黄色種の「エミルコーンE」など、抑制栽培にも適した品種でヒットを飛ばしてきたが、今回の試作種「SW—195Y」は耐倒伏性に優れ、栽培しやすい高温期収穫向けの中生種。穂長が20㌢以上、穂重430㌘以上と大穂で、果皮は軟らかすぎず、収穫後もシワが出にくい。

「香り」「甘み」「うまみ」の三拍子揃ったエダマメの「味風香」と「夏風香」。早生種「味風香」の作型は2月ハウス栽培、3月トンネル栽培、4・5月露地マルチ栽培となっていて、3月中旬以降の播種が最も実力を発揮。中早生種の「夏風香」は3月トンネル栽培、4・5月露地マルチ栽培の作型で、4月下旬から本領を出していく。

コマツナの「のりちゃん」は春から秋播き品種で、白さび病、べと病に強い。高温期でも徒長しにくい「浜ちゃん」は収穫幅が広い。「あっちゃん」は耐寒性、低温伸長性に優れており、気温特性にあった品種が揃っている。

「SQ—018（栗天下）」「SW—195Y」ともに来年発売予定。

（日本種苗新聞）